



高島を愛する児童の育成～算数科を中心～

教員は、子どもによりよい授業を行うために、法律で「研修、研究すること」が定められています。このタイトルは、今年の高島小学校の研究テーマです。算数の学習と高島での生活を結び付けた学習をすることで、高島の人、文化、歴史、自然などに積極的に関わろうとする子どもを育成したいという思いがあります。

今のところ、この研究の中で学んでいる子どものイメージは…。

「高島にはどんな生き物がいるかな？黒い魚が5匹いる。3匹逃げたら残りは何匹かな？」

「高島の島の面積はどれくらいかな。そのうち、人が住んでいるところの面積は…。他の島と比べてみるとどんな違いがあるだろう？」

「高島に観光客の人が来ているけど、人が多い時期と少ない時期があるなあ。何月が一番観光客が多いか調べてみよう。グラフにすると分かりやすそうだ。観光客が少ない月に、人を増やすには、どうすればいいかな？」

このように、高島の産業、文化、歴史、自然を算数の目で見つめながら、高島のよさを学んでいく姿をイメージしています。

多くの情報が溢れ、変化の激しいこれからの時代、子どもが、身の回りの出来事や情報をデータで客観的に把握し、分析、正しい判断をしていくための力に結び付くものです。

5月22日(水)に研究について話し合いました。

研究主任の犬塚先生が研究の内容、授業方法などを提案しています。

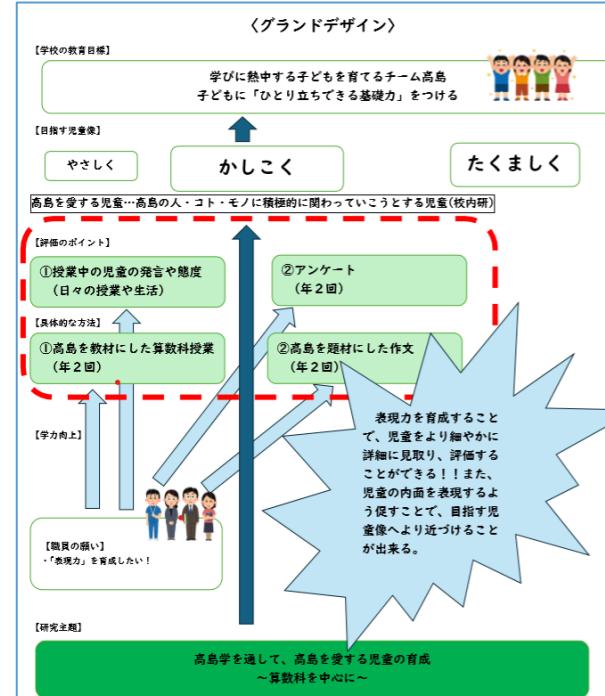
研究の概要

高島学を通して、高島を愛する児童の育成
～算数科を中心～

1 研究主題設定の理由

(1) 本校の特徴や前研究主題とのつながり

本校は唐津城の北側に位置する、人口200人未満の自然豊かで静かな高島にあり、開校以来、体験活動や地域連携を積極的に行っている。平成28年度からは、高島のことを知り、高島の未来に向かって自らできることを考える学習を通して、高島を愛する心を育てる「高島学」に取り組むようになった。そして一昨年度は、「『学ぶ楽しさを追及する児童の育成』～サービス・ラーニングを中心に据えたカリキュラム編成と活用力の育成～」という研究テーマのもと研究を行い、サービス・ラーニングを通して、学ぶ楽しさを追及する児童と、児童の活用力育成を行ってきた。サービス・ラーニングとは、教科等での学びを地域社会の課題解決に生かすことを通して、自らの社会的役割の自覚を促す学習である。(1967年アメリカ合衆国で誕生)



一人ひとりの子どもの学習状況や研究の方針を共通理解して取り組んでいくためには、これらの文書が欠かせません。
(裏もあります)



子どもの興味、高島のこと、算数の内容をどのように結び付けて、子どもが「熱中する」授業をしていくにはどうすればいいかを時間ギリギリまで話し合いました。
これから、さらに話し合いを重ね、よりよい授業づくりをしていきます。

5月26日(日)高島区体育大会

いよいよ、26日(日)は、高島区体育大会です。

8:45開会です。

当日の天候がはっきりとしないところがありますが、参加される方は以下のことにご留意下さい。

- ・熱中症対策(水分補給等)
- ・雨天対策(途中から雨が降るかも知れません)
- ・準備体操等、怪我をしないようにする。

※当日、参観者が参加できる競技もあります。くれぐれも、怪我(転倒、アキレス腱断裂等)のないように、無理をせずに体調にあわせて活動してください。

※天候がはっきりしないときは..

6時~6時30分の間に保護者様へは「はなまる」をつかって連絡します。

地域の皆様には、区より連絡があります。

